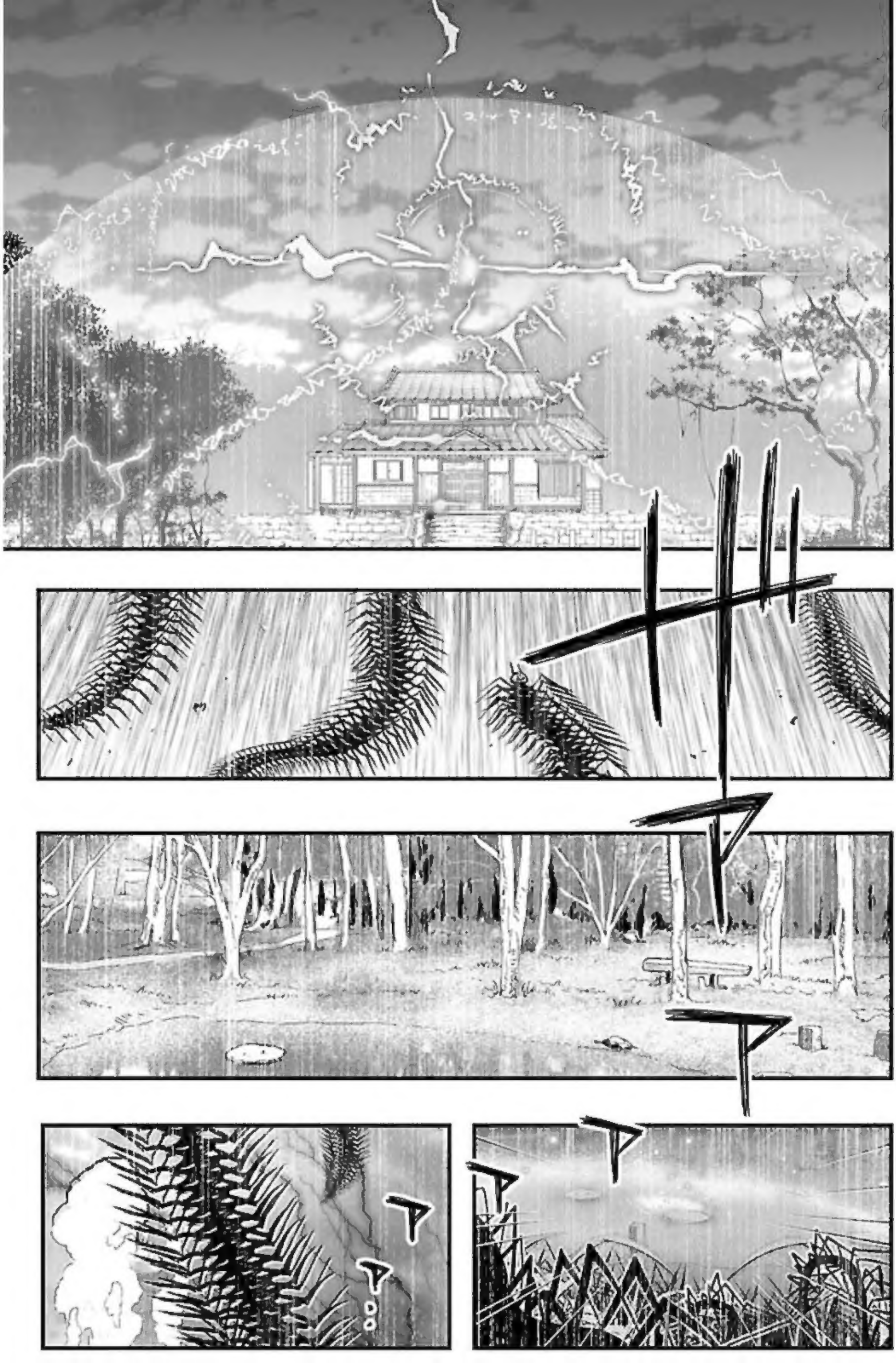


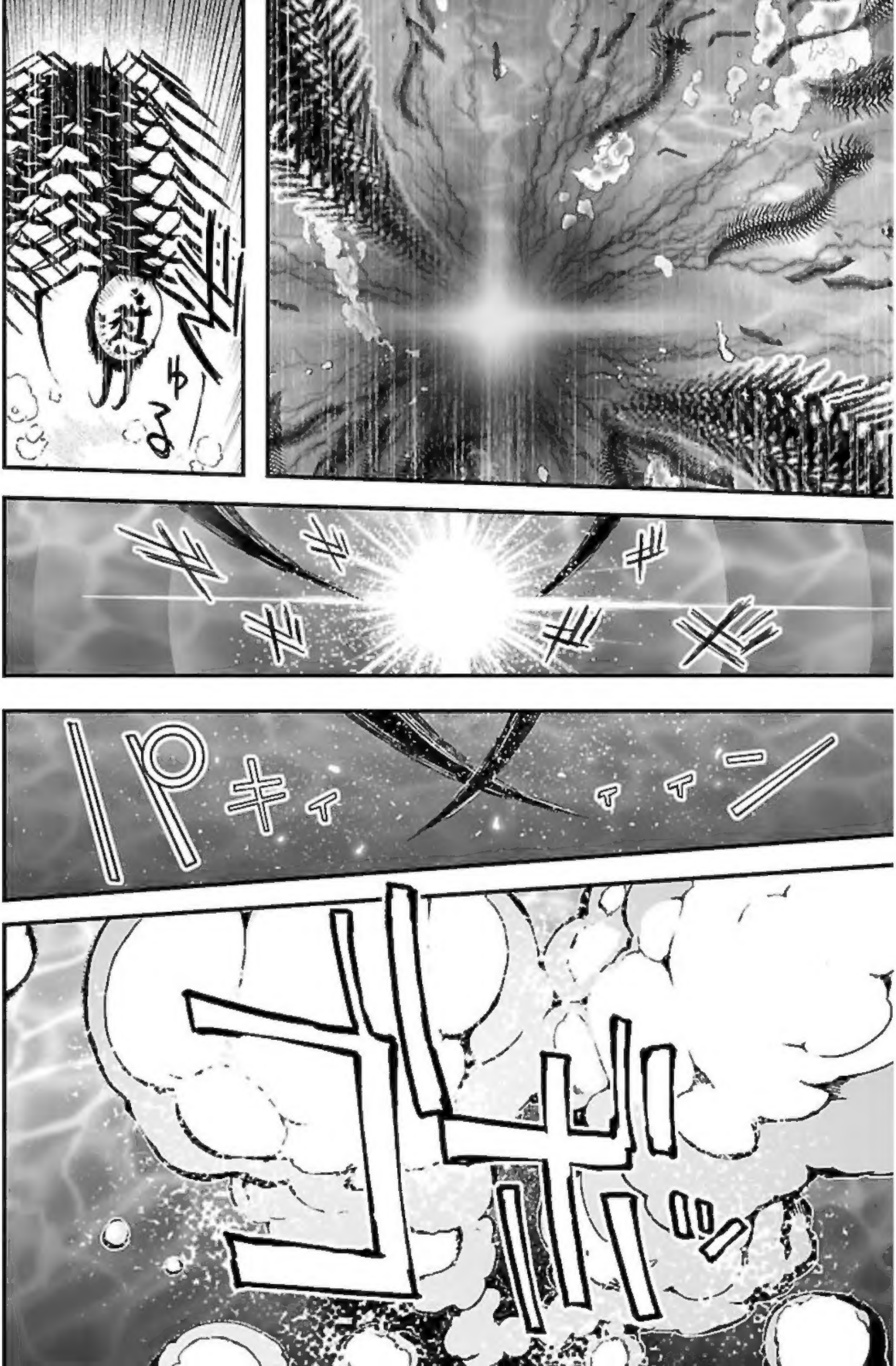
デスレス
08
DEATHLESS
六道神士
Rikudou Koushi
YOUNG KING COMICS


デスレス
DEATHLESS
六道神士
YOUNG KING COMICS


デスレス
DEATHLESS
六道畏士
Rikudou Koushi



ザアア
アア
アア…


ゆる
ギギギギギギ
パキィィィーン
ゴボッ

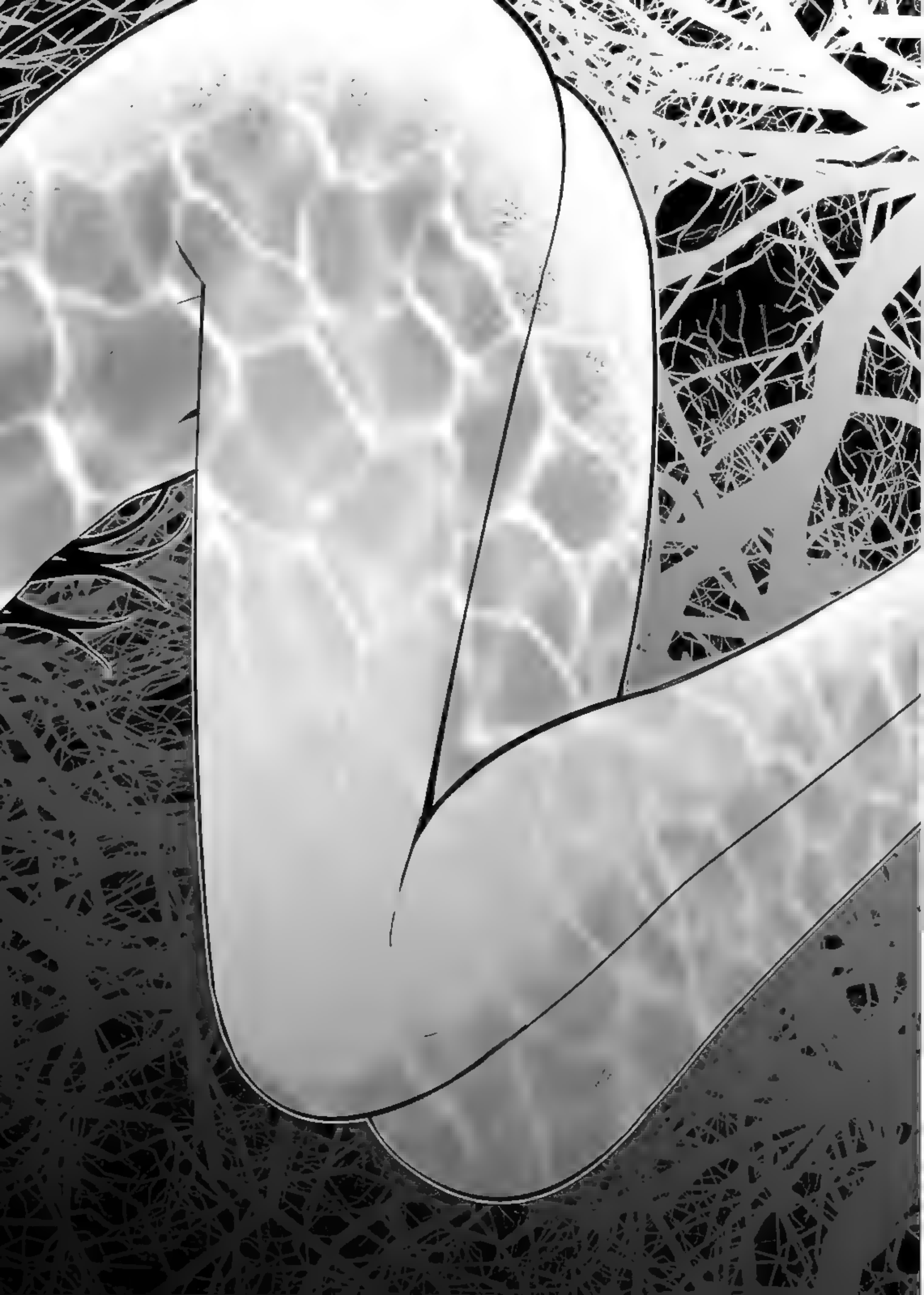

分断されたということか…
こうなれば結界が頼み……
だがこれは……
以前やられた手口か!?


延寿殿(エンジュ)の手引き!…
ちと甘く見たか…
延寿殿……本気でここを…


宮森家を…堕とすつもりか！




これは…
現時点の光景なのか？
こやつ…何者だ やはり結界が消されたのか！
どうする…
吾とて闘えぬわけではないが…




第61話 ゆめうつつのひとたち


ん？
ミカサー
ミカサお姉ちゃーん
この声は…？
ラフレシアの花言葉って知ってる？
!?



…延寿殿？
気になる？気になる？
最悪な頃のミカサなら
このへんも視えてると思うから一応声に出しとくね
歴史の改変について…だ
これは…
いつの延寿殿だ…
ここに映し出される光景はいったいなんなのだ？
…
ミカサやムサシはありのまま事態を受け止めてたみたいだけどさ
ボク無理だわー
正直ショックだったよ
ん？「歴史が変わった事」にじゃなくて


世界に裏切られたカンジ?
過去を変えるなんて
歴史を変えるなんて
不可能なんだ
?
今更なに言ってるのかって?
…だの
うん…スザクさんたちや僕らの能力のこととか今更に聞こえるね
でもね…これは他のこととは次元の違う大問題だ
ミカサやムサシには興味ないかもだけど


人間ってそうとう頑張って世界の仕組みを論理的に調べ上げてるんだ
世界はこんなに折り目正しく科学や物理の法則に従ってる
だったら僕らやスザクさんたちの能力だって
…途方もないことだけどさ
なにかで帳尻の合うことだと信じてきたんだ
必ず意味があるんだってすがっていたんだ
──僕は


けれど世界は僕らを裏切った
——今ならミカサが壊れた理由がわかる気がする
最盛期のミカサにはわかっちゃったんだろう?
だから覚えたまま正気じゃいられなかった
正直 僕は最後の一線で確信してないから正気でいられるんだと思う
ミカサがこの伝言を視るかどうか… いつ視るか あるいはもう視てるのか知らないけど
僕はこれから世界にケンカを売ろうと思う
手段は選ばない


あ 間違い無く ひとが いっぱい死ぬね
だから これは言い訳じゃ ないし 言い訳しないよ
ミカサたちにも 容赦しないと思う
「僕ら」の意味を 確かめるためなら
なんでもする
そうだ 忘れるとこだった
あの世界一巨大な花 「ラフレシア・ アーノルディ」の 花言葉はね――


「夢現」
女に狂うて敵に降るたまではないと思うたが
やはり理由があったのか？…
正直何を言っておるのかわからぬが
つまりは…
どのみち延寿殿は本気だということだ



こら
自在になにかを映し出せるのならミカサ殿らがどうなったか映さぬか！
敵が結界に侵入したのかしておらぬのか
今外の有様はどうなっておるのだまったく！
もっと役に立つことを映せ！
お
次はなんだ……


これは…
いつの光景だ…
これはもしや…
吾らと会わなかったミズキ殿ではないのか…？


いつの…ではない
なぜこのような光景が存在する?
「夢現(ゆめうつつ)」
延寿殿の言っていたことは…
莫迦(ばか)な…!
吾らは決して幻などでは…!
ゴボッ…


〜〜〜〜？
〜〜〜？
っと…
ユラ
は…
ホエ
ミズキ…どの
ア〜
ホエ
ン〜〜
フラ
フラ
キョト
キョト
やはり…
元には…


ー～
ア～ー‼
待て待ちやれ
ミズキ殿！
今は――


なぜ外に出る！策の無い間は籠城するしか…


…
貴様は！…



はろう
…乙金？……
ウッ
あなたは…
スザクさんとかいう
夜叉のほうですね
なんという
有様だ…
まあ…
以前のお姿に



ミズキさんがもとに戻られたのですか？
！
ーーー
…そうではないようですね
貴様…
随分事情に明るくなったようだの
そう…でも
こうしている間はあるじ様のお考えをある程度共有してしまうもので
しかしそう…ですか
困りました…


滅びますよ・・・
この世界
いきなり大上段から巨大で迷惑な話だの
ええわたくしも特段実感はないのですが
「あるじ」…ということは
此度の黒幕は以前会ったあの教祖か


……
あるじ様を黒幕などと安っぽく表現しないでいただけますか
貴様も普通の生を過ごす機会であったろうに
わざわざ飼い主を見つけて尾を振ったか
………
夜叉ごときに理解しろとは申しませんが
この…変わってしまった世界で
わたくしがどれほどあるじ様に再会したかったたか
ですが…
いえ…言いますまい


…乙金？
お忘れなく
わたくしの許せないものは
あるじ様に仇なす
すべて
わたくし
意外と手段を
選びませんので…
いや
意外ではないが
お忘れなく
なんなのだ…
ごきげんよう…


ヒュゥ…
ズ
ズ
ズ
久しく…
いや…
貴様とは初対面なのか



第61話／完


朱雀

デスレス

DEATHLESS


みつけたぞ…
羅睺の髄…！
やるしかないか…
くっ…


下がっておれ
抜殻
は…
おう?…


なっ…?!
ぬぉ
オオオオ
ド
オ




第62話 一矢報いるひと


痛っ々っ…
痛いのは苦手だというのに…
おうっ
ムク
ん〜


ズギュウウ…
…まったく…
えい 代われ!
キッ



相手にもされなんだか
おかげで助かった
……とも思えぬな
滅びますよ
すよー
放っておけば陸でもないことになるのはあきらかだの
敵はこの身をミズキ殿だとわかった上で無視しておる…やはり…



ミカサ殿の言うておったとおり…
敵の狙いはミズキ殿自身ではない
連中の目的がミズキを殺すことじゃなく――
無力化することじゃというのはわかる
ミズキを成長させる要因であるわしらを始末するっちゅうのもまあわかるな
だが…それだけか？
……
最初にここを地上げしようとしたあの宗教屋どもも…
やっぱりミズキが目当てだったのかねぇ？



連中はあきらかに
ここに拘っちゃいなかったか？
「実済智の光」
みづち…
ミズキ…
水土…
まゆ
水土？
池
見ず池──
水城…
……スザクさん
ミズキを「修理」してくれたっていう地下の穴ぐらは


ここの地面の下って ことで間違い ないのかい
池
空洞
裏の林の池が 出入り口なのは 間違い無いの
地下だと 確かめたわけでは ないがあの広間は
なんというか・・・ 重かった
そんなでかい 洞窟がウチの足下に あったとはのう
「天土ノ繭」…
「繭の舟」
なんじゃそりゃ
ミズキ殿が 歌っておった わらべ歌だの
――星降リシ水土ナルハ
このへんに 断片的に伝わってた 大昔のわらべ歌と 同じモノだ
天土ノ繭守リシ見エズノ池
水土ノ宮ノ守ハウタフ
完全版て ヤツだよ
繭の舟永久ヲ夢ムベシ
イトヨウ微睡ミタマヘ



大昔の節回しのついた歌ってのはいわゆる「言霊」…
神様と対話するまじまい的な内容がもとになってるもんさ
豊作祈願とか雨乞いとかみたいなのか?
そうだね「願い」…や「習慣」…
そして
「禁忌」…
この歌の後半は明らかに「禁忌」に対する警告だ
繭の舟水ハラ夢ムベシ
イトヨウ微睡ミタマヘ
「繭の舟」とやらがずっと眠っているように
永遠に微睡んでいますように


起こすな――と
もはや…敵の一番の狙いはミズキ殿ではなく…
ここか…


…吾はともかく ミズキ殿を敵に 晒すのは危険…だが
もはや それどころ ではない 空気だの
勝てる気も せぬが… ミカサ殿らを 待ってもおれぬな
ミカサ殿の 予知も全く 通っておらぬし…
ズチャッ


おうっ
ニャヤア。。
わかりやすいしるべだの
なんだこれは


ズ
ズ
ズ


長虫の性であったか…
正直好かぬな


ヒュ
本気を出すのは榎来以来か
ドドドッ


憑坐(よりまし)は生身…
殺(こわ)せば…
使えまい!


あいだだだだだっ
ドサッ



ぐ…
警告の光が
…吾を刺すか…
この…
穴ぐらが
敵に降ったと
いうのか
ズズ
ふ…
もしや
かなり
マズいかの…
これは


ここまでか…
永き旅路であった…
オ
オン・
なん…だ
なにをしておる…
あれは!…
ジジジ
ジジジ
ジジ


夢現(ゆめうつつ)・・・
…違う…
違う！
そんなものは…！
なにをしておる！
慧来(あやつ)との時間になにをする！
やめよ…
やめよ…
やめよ！


吾の旅路を
汚すな！
ポタタッ


喰らってやる…
消してやるぞ…


なにが…
おこって…おる…
ひっかかったー


犯人は
わたくしですー！
なにが起こっているかと申しますと！
即効性毒のあれやらこれやら
呪物を砕いた粉やら雑巾の絞り汁やらを
時間で溶けるカプセルにたっぷり詰めてイッキですよ
飲むのに結構苦労しましたー
びっくりしました!?
……
そーですよねー心を開いていますからだだもれなハズですもんね
わたくしの・あ・る・じ・様への忠誠心は本物ですしー



あッたりまえ
ですとも――
ズバシャッ…
あるじ様LOVEの
わたくしが許せると
思いますか?
哀しくて
美しかった
わたくしの
あるじ様が
ゴフッ
ドチャ
だれかの道具に
なるなんて
ギリィ
オェッ
きっつ~
乙金…
勘違いしないで
下さいね
わたくしに
許せないものは
あるじ様に仇なす
すべて
ククク



よくは存じませんが「羅睺の番衆」とかいう化け物の皆様ー！
今ってもいいところですか?!
だいじなところですよね！
鬱陶しいですか！
イラつきましたか!!


おまえなんか
・・・・あるじ様じゃ・・ない
ざまあ――
第62話/完



デスレス

DEATHLESS


ズ



…なんとまぁ
卑劣かつ小狡く
薄穢く
手前勝手でなんの決着にもならぬくせに
腹立たしい…
満足気な
逝き様か

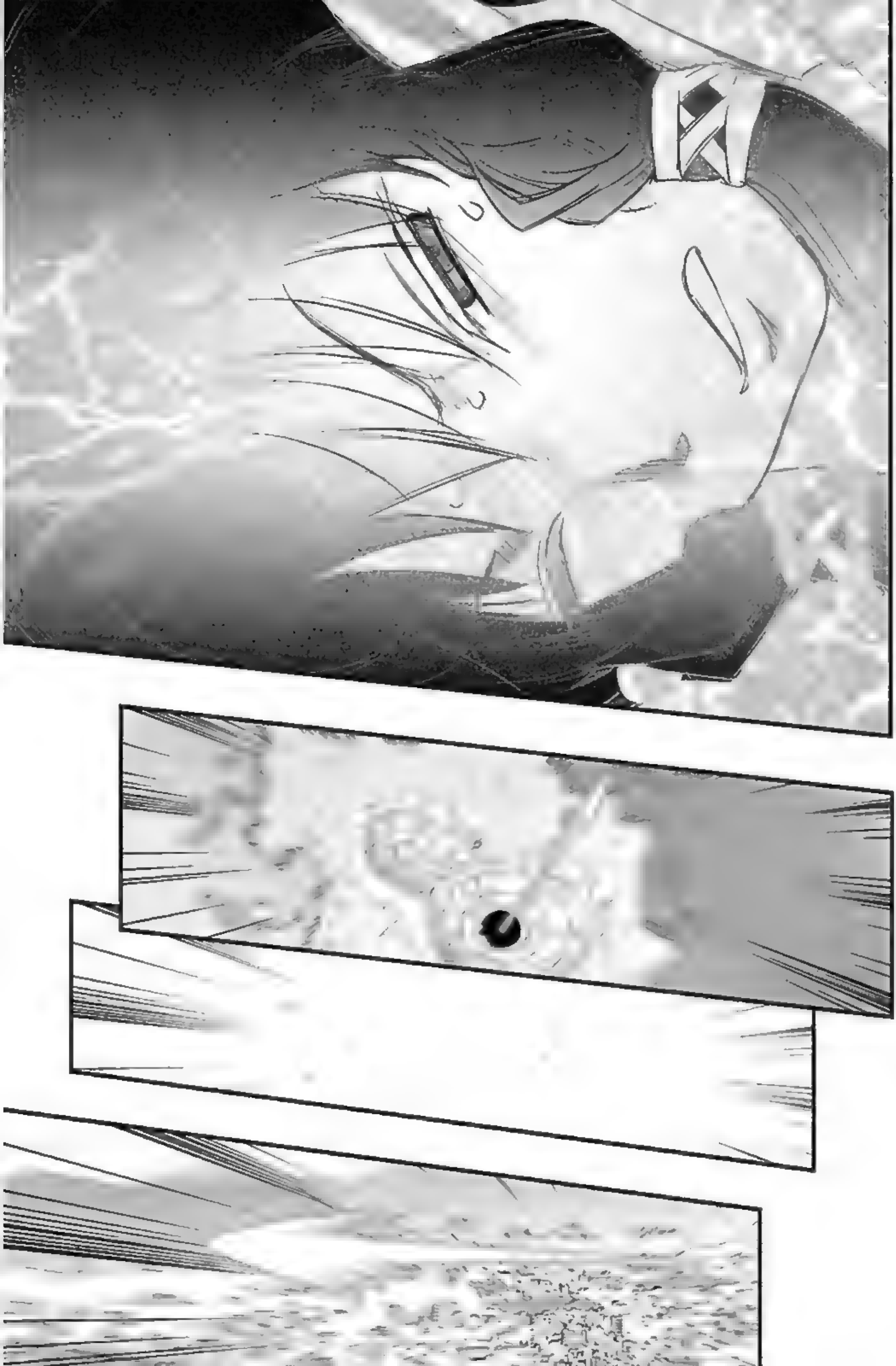

第63話 いきどおるひと



さて…
身動きすら難しいこの有様をなんとかせぬと…
ゴボボッ
?
む?


なんだ?…
う…
これは…
まずいのっ…


おおう…
ブルッ
待て待て！
待ちやれ！






おっと


お帰りー
カク
カク
もーちょいで一区切りだからちょっと待って
へっこら
へっこら


ザ
あれ？怒ってる？
いたた…
ヒマだったからちょっと遊んでただけさ
入れ物は好きにしていいって約束じゃない
にしても早かったね
もしかして乙金が裏切ったとか？
…ほんとにそうなんだ？
どうやって？
自殺？よくもまー


自分で毒飲んでめちゃくちゃな苦痛を浴びて死んだって？エグいなー
でキミも相当苦しくてムカついたんだ？
…そうじゃなくて？
天晴れだねー
そりゃムカつく
だから僕の目で洗脳しようか？って聞いたのに
心の底から服従しているのがわかってたって？



それは……キミに対して……じゃあなくて……――
僕らの……知ってる……キミに対して……だからねー
キミに言っても仕方が無いけどね
なにその目
ああ 僕も裏切るんじゃないかって思ってるの？
クスクス
恐がりの可愛い子ヘビちゃん
大丈夫大丈夫
よしんば裏切るにしたって何をどうすりゃいいのさ
僕はキミに対して無力だしねー
そういうイミでは乙金も同じだったけど
嫌がらせのために自殺するなんてサイコな才能は持ってないなー
すごい執念で裏切られたもんだ


まぁ乙金的には裏切ったというのとは違うんだろーけど
仇を討ったってカンジかな
バカだよね
ヤツは僕らの知っているキミと今のキミを別のものだと思ったんだ
安心しなよ
僕は最後まで
キミの孤独に付き合ってあげるから



ギチッ
くそっ くそっ！
このくそ虫共が！
ギチ
ギチ
ギチュッ
ギチュ
おーお結界が復活したぜ
あたりまえだ！
ギチチッ
こんな怖い思いをしてるんだ！すこしは役にたて！
そうか…


ポタポタ
ぬしの仕業か…
うわぁ!
パシャ
どっどこから浮いてきた!
だの
まったく不可思議な泉よ


正直 結界を直してくれて助かった
礼を言う
貴様のためにやったんじゃあない
礼は儂に言ったんだよ
前も同じ事をやっておったが…どうやって結界を直しておるのだ
これさ
ギチ…
長虫(ナガムシ)か…
あれの眷族であろうの
道理で穴ぐらが敵に回ったわけだ
乙金だろうが地下の空洞だろうが節操なく取り憑いて操るというわけか
この気持ち悪いムカデみたいなムシを追い払ってやったんです 次からは自分でなんとかして下さい 気持ち悪い!
わかった わかった
…
しかし…
乙金といい ぬしらといい…
?


笑ってないで化け物は化け物らしく殺し合ってくださ…
ゾクッ
ユラ
――だの
言わずとももう容赦せぬ
元より抗いもせずにやられてやるつもりもなかったが…
死ぬる事がさほど怖いわけでもない
旅路の終わり――
消え去るも生々流転の定め
そうも考えておった


だが…あれは…
あれは！
吾が旅路の…
改竄！
改悪！
あれが奴らの目的だか手段だかであるというならば


吾は
断固拒絶する
そうか…
敵さんは そんな手に
出てきやがったのかい
!
ぬし…
今のが
伝わったのか?
ん?
おう
このいくさは
どっちが
生き残るかって
あらそいじゃあねぇ
どっちが
なかったことに
なるかって
さいころだって
こったなァ



おぬし…
…負けた方が死ぬんだろう？なにか違うのか？
まァ・それでいい・ヤツにとっちゃァそんだけのコトさ
分がわりィぜ嬢ちゃんはまだ壊れたまんまだしよ
色々あってぬしのことはミカサ殿もあとまわしにしておったが……
ぬしがいったいなんなのか…もう少し早う考えるべきだったやもしれぬ
そう思うぜ
お互い様だけどな
どういうことだ
この有様が偶さかなわきゃァねぇわな？
儂らは呼ばれたんだよ
この時この場所になァ
顛末から全部決まってたのかもしれねぇぜ？


それは違う
これから起こることがきまりごとだというなら抗う意味もない
吾が旅の軌跡は吾が意思のかたちだ
そうさな…
化け物が偉そうに——
儂も弱気だ——


まったく来客の多い日だ
…結界を越えてくるということは… ああ… そうであったな
またなにか来るのか！
もと身内がな
ええい…隠れておれ！
ダッ
畜生…
畜生！
私はなんでまだここにいるんだ！
今更かい そうだぜ オメェはなんで逃げねぇんだろうな
ここにいなくてはいけない気がするんだ！
そうでないと助からないような…
ま…役に立ったしな
そうだ 顛末(テンマツ)は儂らが決めんのさ



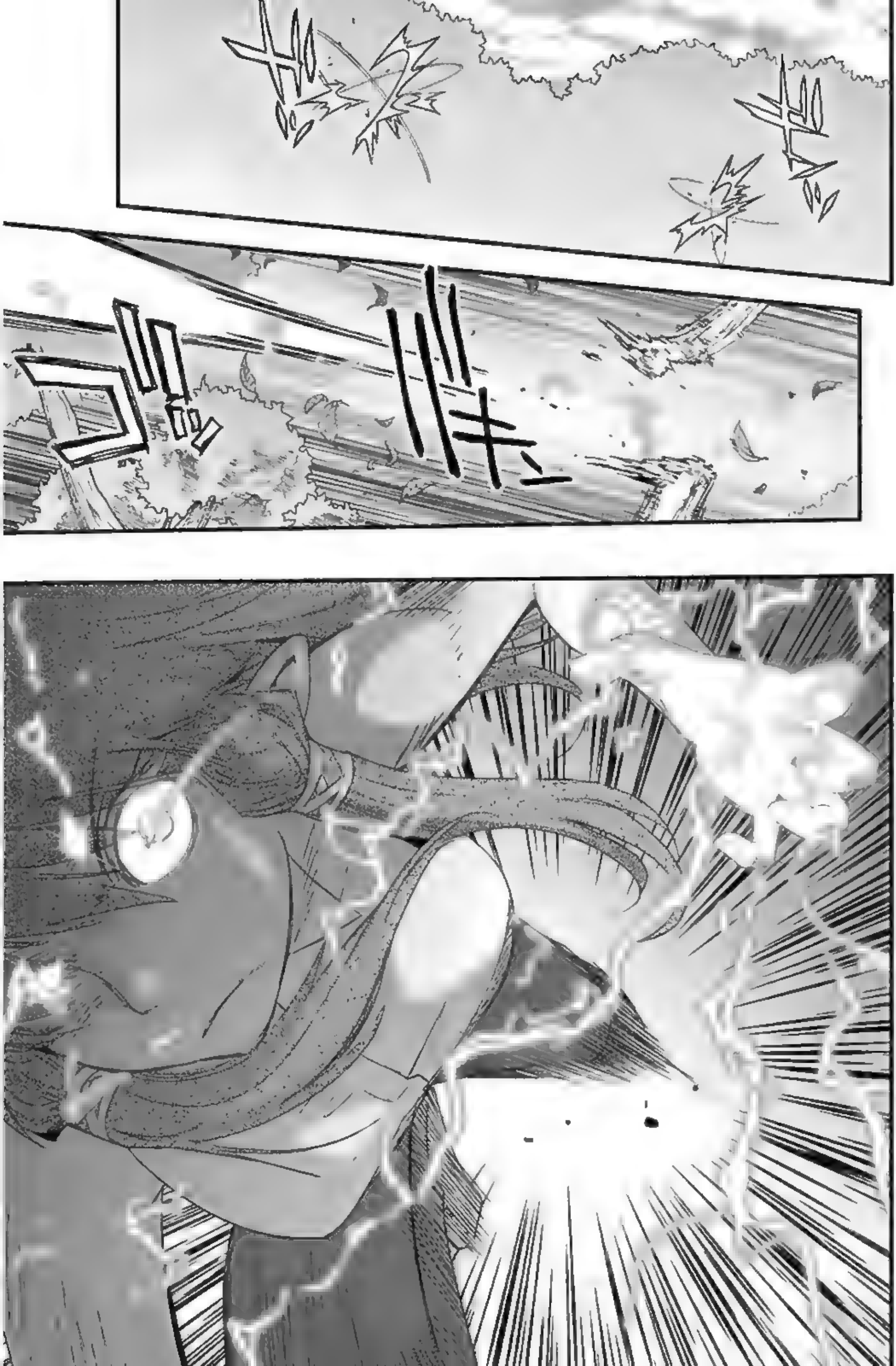

間違い無い…
これは…
さほど鋭くない
吾にすら
違えようもない
噎ぶような
血臭


…!?
ギシッ
ギシッ
落ち着け！
目に見えて残っておるなら時を戻して生き返らせれば済むことだ
なぜこうまで心が騒ぐ！
ミズキ殿の影響か？…
違う…のか


確かに
ミカサ殿らとは
深く関わった
ほうだが
知己を得ても
皆必ず先に死ぬ
寂しく
思うことは
あった
虚しく
感じることも


取り返しはつくのだ！
冷静になれ！
おかしいではないか
ひとが死んだ程度で
こんなにも――


怒りが沸く
カマドおお！
第63話/完


ギン
ギ
バキィ
ゴッ










カ
マ
ド
お！
ぬし…
喰ろうたな！
形儀悪しく
噛み跡まみれにして
喰い止しおったな！
人を！


喰ろうたな！

第64話 かまどのなかのひとびと




チチッ
はぁっ!!


あ
あー
強辱と蹂躙
奪い尽くされる感覚…
ゼェッ
ゼェッ
百遍強姦された気分だ
最低の体験だ
情けない…
おちつけアタシ
ハァ…
キュ


ちょっと不二さん？
そうかアンタが助けてくれて…
でもアンタが消えちまうよ！少し喰い戻しな！
キュー
キューーー
ありがとうよ…
？
キュー
キュー
ああそうかフクウのことだね
すまない…アタシらがやられたあとのこたあわからないんだ…
ギュッ
だが消えちまったカンジはしないよ…
安心できる状況でもないがね
惨敗…ていうか闘いにもならなかった
甘かった
…
不二さん
悪いがムサシのほうも頼むよ


じゅ～～～
最悪じゃあ！
オエエエエエッ
一丁前に壊れてんじゃないよ情けない
ガクブル
ガクブル
キラ
キラ
ちょっと生きたまんま食い殺されたくらいで繊細ぶってないでしゃんとしな！
くいころ…うぷっ！やめろ思い出す！
このフリチンが！
とっととウチんなかから着るモノとってきな！
ひどっ
ったくー
ズズン！


この重い気配のぶつかりあいは…
カマドさんとスザクさんがやりあってる！
いつのまにか本丸に火がまわってんじゃないか！
ゴッ
ギューン！


痛い
痛い
痛い痛い
んっ



メキ
ビクッ
ぬるぅ
メキッ


か…
ミシ…
は…


ゴクン
おなかが…
すきましてございます
すいたのであります
―あるのです
久々に死ぬほど痛い…
生きておるということか


痛みが…


空腹が
殺し合いが
生きておる傍証（あかし）とは
傍痛（かたはらいた）い






……ふん
この悪食が
バカ力以外は然ッ切しではないか
ぴく
ぐ…


ゆら
だがしかし…
喰っても喰ってもなくならぬ・・・・やつだの
どれだけため込んでおるのだ


喰うはしから使うても満腹になってきたわ
まったく面倒な…
…!?
痛っ…?
なん…!


!!?
なんだ こやつらは!
あやかしではない…?
人間のような気配…
カマ…ド…?






ぬしの所縁(ゆかり)か
カマド…
めー…
めき
めき
めき
君やカマドさんが
おなじ化け物(もの)とは
かぎらな――
おおう…
めき
めき


めき
めき
めき…
たしかに…吾らは別物だ
幾百年同道して相身互い知らぬ事ばかりとは
吾ら揃ってたいがいだの



第64話/完



デスレス

DEATHLESS


あれは——
「試し」？
「何度も繰り返した」？
よいしょっと


「実験」みたいな意味?
「異能や異形を集めて」――
「大釜に詰めて」
「独りになるまで喰い合わせた?」
まるで蟲毒だね
あれ?知らない?
蟲毒っていう大昔中国で流行した呪いの概念があってね
延寿の3分蟲道
まず材料を用意します
よういするもの
・いれもの
・毒蛇や毒虫百種類
・憎いやつ
0:00
容器のなかに毒虫や毒ヘビを全部放り込みます
ポイ
ポイ
シャー
0:30


しっかり フタを閉めて しばらく 互いに喰い殺し 合わせます
そして しばらく ねかせたのが こちらです
3年もの
2:46
最後に 最強の一匹が 残ります
レア！
毒
めっさ つよい！
SR
3:00
その一匹を 使って 呪ったり 呪われたり します
キシャー
てな カンジの
結構 世界中で 流行ったんだよー
日本でも 飛鳥時代には 法律で禁止 されてたくらい
単にキモくて アブなかったから だろーけど
…「試しは」
「幾百度 繰り返したが 失敗した」…ね
だよねー


ちからを喰らうものは現われなかった
「まれに」
「ひとの時をかじって生き存えるだけの失敗作が生まれただけ」？…
「ただの人喰(ひとくい)」
「ただの」
「夜叉(やしゃ)」
「夜叉」…ね
へえ…

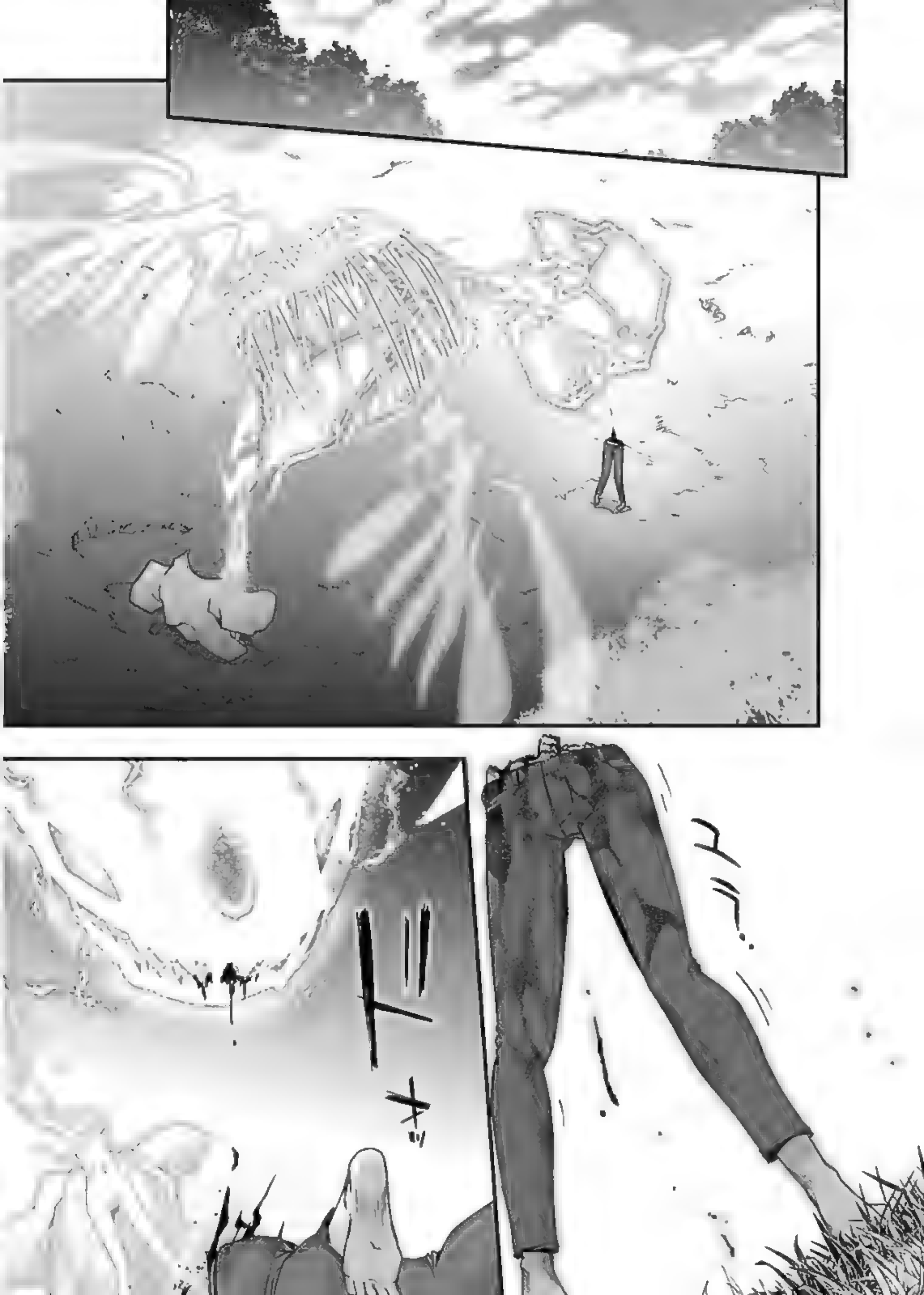

フクウたちもそういうのなんだ…
へー今日は色々教えてくれるね
だいたいその語りの主語って誰？
子ヘビちゃんじゃないよね
素材は費えた
此岸に羅喉を産む試しは潰えた
らごう…
羅睺…って
多分ミズキのことなんだよね
は――ん？


つまり
・・・ミズキみたいなモノを作ろうとしてたのか
――で失敗したと
「ほとんどの夜叉は共食いで消えて」
「なりそこないが残った」
なりそこないが
なりそこない？
「胎内に子がいたため独りになりきれなかったもの」？……
もしかしてフクウたちのことかな？
…もともと失敗作だった夜叉の中でもなりそこないが生き残るなんて皮肉だねえ


カマド君は？……
「独りになることを拒んだもの」？
「羅睺になれず夜叉にもなれなかった」
「壊れた夜叉であり毒虫の詰まった大釜そのもの」？
なんだか抽象的だね？
一匹であり
百匹でもある飢えた虫たち
毒には
毒虫を

第65話 喰われてゆくひとたち





ユラ…
ドサッ



どぶ
ぐち
ぐちゅ
ミズキ！


ザザ…
おっ……
おのれ!…


くっ…
体が…動か…
ミズキ…!
ポン
ビクッ
スゥ…
は…
ミカサ!
なんてえ
ザマだい
やつは!?…
池のほうに
行ったよ
こっちにゃ
目もくれずさ


いったい
どうしたんだい
まったく
ザマはない
気配だけで
アテられて
動けんとは…
おまけに
情けまで
かけられた
ようじゃ
違うんじゃ
ないかい
もうアタシらに
用がないんだろうさ
ナメられとると
いうことか…
気付いて
ないのかい
あんた今…
いいや その木刀
ふってみな?
ん?
なんじゃ…


なんじゃこの手応えは…
なにも感じん…
まさか…
そうさ
アタシもなにも見えない
喰われたんだ






ピキ
ピキ
ピキ


ちょっと待って♪


結界を壊して
もらっといて
悪いけど
キミがここを
食い荒らすのは
ちょっと待って
ほしいんだ
ごめんねー
手違いがあってさ
乙金ってホント
嫌がらせだけは
神☆業


まー お腹が空いて ムカつくのは わかるけど ちょっと 待っててよ
ギク
2時間…いや 1時間もあれば ヤって戻って これるからさ


ちょっ・と・だけ・だよ
ミチッ
ミチッ
やっぱしもう言う事聞いてくんないか…
微妙だなぁ
いろんなものを封じるってだけで操れるわけじゃぁないんだよねコレ


そうそう
僕でよければ
ご馳走するからさ
いたくしないでね
ブツン！
きゃいん！




は…
吾は…
どうなっておる
ここは一体…
そうか…吾はカマドに…
それから…


どうなったのだ…
わからぬ…
此処が話に聞く
ぱらいそとか
いうところか…？
物の怪に昇る
余地があるとは
聞いておらなんだが
…ん？
グイ
いぃ
ミズキ殿…!?
だがここは
ミズキ殿の
中では…


なぜ小さく…
ぬしらは…!
池が…!


どうなっとるんじゃ！
いまさら驚くんじゃないよ
それより…
この食い止しは延寿だったモンじゃないかい？
ぐえ…
ウ…来とったのか…
弟ながらろくでもない最期じゃ
アタシらもひとのこた言えない有様だったさ
最期…ね
ここに来て素直に退場できたンならめでたいんだろうが…


カマドさん…
固まっとるぞ…
どう なってんだか…
あんなに 見えることが ウザかったたっ てえのに 勝手なもんだ
なにも 見えないのが こんなに 間怠っこしい なんてね
普通の人間の 気持ちが わかりましたか



…旦月か
なんだいアンタ引き篭もって震えてんじゃなかったのかい
こんなおかしな所に誰が来たいものか!
うえっぷ死体が…
儂が来たかったのさ
入れ墨の旦那かい
なんだと!
「来たかった」って言ったか貴様
ここに来ないと私が死ぬんじゃなかったのか!
うるせえなあ
池の下に穴があったのか


わしらは何の上で暮らしとったんじゃ
気をつけな ムサシ 多分 見た目通りの 穴じゃない
本当に……穴があるのかすら怪しいもんだ
まったく 正気を疑う
いつ動き出すかわからない化け物のそばでよくのんきにお喋りしていられますね！
こうなっちゃぁアタシらにできんのはことの次第を見届ける事くらいだからさ
なにか知ってんのかい 入れ墨の旦那
なにも…ただ感じんだよ
旅の終りが近えってな…
第65話/完



デスレス

DEATHLESS


あんたがたは異常だ！
ろくでもない死に方をするかもしれないのに…どうして落ち着いていられるんです！
なにを今更
アタシらは怪しげな結界の中で孫娘と信じた存在を育ててきたんだ
薄い氷の上で面の皮厚く日常を演じてね
旦月ですらこちら側のモンだと知らないうちは愛すべき日常の一部だったのさ



なにを今更 他人事みたいな 泣き言言ってんだい
ぐ…
それに――
アタシャ スザクさんと カマドさんが ウチに来たとき
すべての終わりが 始まったもんだと 思ってたんだが…
今は もしかしたら―― 旦月がウチの門を くぐったときが はじまり だったんじゃあ ないかって 疑ってるよ
そんな バカな…
はあ⁉
かもなァ


確かに
儂らは人外側の関係者の中じゃァあの娘ちゃんに最初に接触したよな
それは…貴様が……！
そうさ…儂の指図でオマエは動いてやがった
そして…
儂はそうしなきゃァいけない気がしてたのさ
あ・の・時・ま・で・な



第66話 いのるひとびと





ガガガッ
アァァ
やっほー♪
うふふふ♡
あははは♡
ぎゅ～っ
ぎゅ～っ
え…
延寿殿…？
クスクスクス
見付かりましてございます延寿様
うふふ…
却説如何したものでございましょう延寿様


な…
クスクス
おや子供がおりまする
みこさまと近い年でありましょうか
可愛らしいこと
ふふっ
引き裂きまするか
刻みまするか
クスクスクスクス
キヨメッ
はい ちょっと黙っててね
キヨメッ
あ
ふああ


ああ
あふぅ
延寿殿…
なぜ彼の世に延寿殿が？
ここは死後の国じゃあないよ♪
子細知っておるならば教えよ！
ここはなんなのだ！
カマド君にぱくっといかれたじゃない
「ぱくっ」と？


…ミズキはあいかわらずみたいだね
とりあえず知ったかぶりしていい？
ウズウズ
話したくて話したくて
いろいろ面白い話があってね
莫迦な
ここがカマドの中空だと？…


そしてカマドがミズキ殿の出来損ない…？
それは真実か!?…
よいしょ
ペミ
あっ
ダカッ
ああ♡ん
さー？
いやカマドのみではない
夜叉がそういうものだというなら…
ハァ
ハァ



フクウも…
吾も…
吾も？
吾がそのような…由来のものだというのか！
信じられぬ…
証拠なんてないしね
グイッ
…わかった それは置いておこう だが…
フン ♪ フン ♫
ユサ ユサ
ハァ ハァ
あ あ
たとえカマドが多くのものが混ざったままひとつにまとまることもできず…
漠然と飢え続ける幼児のような存在だったとて…だ



あやつは腹立たしいほどに我が道を行くただの気弱な食いしん坊であったはずだ
あのように憎悪や虚無で穿った洞のような目をした化け物ではなく！
カマドとはそういう存在だったはずだ
カマドになにをした
なんのつもりだ
あれ意外と初心だ
吾も別に肉欲のことにそうまで羞恥はないが…
なぜだ…なにやらものすごく抵抗を感じる
ってそのような場合ではないわ！


カマド君のことは僕に言われてもねー
僕もこうして喰われてることで察してほしいな
…その最低の体勢もどうにかならぬのか
まあ何をやったかってくらいは知ってるよ
一番弱い心を封じたのさ
やはりなにかしたのではないか!
て言ってもね
そのあとは真実を教えただけなんだよ?
真実……?
カマド君の中のひとたちが無限地獄におちた原因を教えてあげたのさ


！
カマドを作ったのが…
あの地下の施設だというのか
まーねー
いや…カマドだけではなく…フクウたちや
吾をも…？
じゃないの？
よっと
誰に聞いたのだ
どこまで真実なのだ！
延寿殿！
ははは…
あ
あ
ペシン
グイ
グイ
あっあん


さーー？
明瞭せい延寿殿！
ドーン
ッ


待った 待った
いてっ


いてて
スザク君ってもっとゆるいかんじだったと思ったけど随分生臭くなったもんだね
大きなお世話だ
確かに…吾らしくもない
明瞭させたって意味はないさ
僕ぁ真実ってヤツに見切りをつけちゃったからね
…夢現らふれしあの花言葉とやらか
ああ…やっぱり伝言届いてたんだね
吾しか聞いておらぬがな
いいんだ
前と違ってムサシもミカサもボクのこと心配してなかったでしょ？
というか必殺宣言しておったな
よいしょ


まあ余計な力も無くなった今頃は気の抜けた顔してるんじゃないかな
ムサシはまぁ勘で薄々…
ミカサは最初に気付いただろうしね
いきなり僕ら以外の歴史が変化してるとかもうバカにしてるよね
僕はこの世が誰かのご都合主義な夢の中だったとしても驚かない
5分前に出来て3分後に滅ぶ世界だとしても興味が無いさ
この世界が虚ろだから凡てどうでもよいといいたいのか
まるで子供の駄々ではないか


ほんとに
どーしたの
スザク君
死なない化け物
らしくもない
吾は！
奴らのやろうと
しておる事を
知っておる！
やつらは昔日を
すげかえる気だ
吾が旅路を
想いの
凡てを穢す
度しがたい
行為だ
なんだ
大事なモノは
僕とおなじだね
吾は
延寿殿のように
投げたりはせぬ
あやつの
目的は
絶対に
阻止する！
僕がなにを
投げたって？


いや…
投げてたっちゃ
投げてたか
この目のせいで
なにもしない…
するわけにはいかない人生
だったしねー
チャキ
…ま
そんなガマンすら
無意味な
世界だったなんて
笑っちゃうけど
ザシュ
チャッキーーン
投げも諦めも
しないよ
僕今 最高に
燃えてるんだぜ？
キャーーーッ


ベッカー
生まれて初めて僕の願いのためだけに
惚れた相手のために体張ってるんだよ！
なぜメガネ……フッ……惚れ……
本気であったのか…？
※教祖のほう
願いを
想いを凡てにぶつける
これって祈りだよね
かなりマジで
僕宗教家ってみんなバカにしてたけど
やつらだけが意味のあることをしてたなんて大した皮肉だ
くッ


この世界で確かなモノは祈りだけ
そしてボクの祈りは惚れた子が解放されること!
そのために——
あらゆる邪魔者を足止めすること
ははははは
世露死苦!
なんというか…すごいの…
「身勝手」が「好き勝手」にレベルアップしておる
ほんでスザク君の祈りはボクの思い人を止めることなわけだ
祈りあいしてみる?
パン
…妙な宗教の勧誘のようになっておるが…
それ以前にここを出る方法があるのか?
内側から全部食べちゃえばいいんじゃない?


ムリか…
いや…あきらめるわけにはゆかぬ…
ぁちなみに
中空(ここ)は
ボクの目の支配下にあるからね
そやつら全員が敵ということか…
いいや



ボクの祈りだからね
あっちいって
人任せにはしないさ
ペ
ペ
どうしても邪魔をするのか
邪魔なんかじゃないさ
僕は全身全霊で祈るだけだ
君も自分の祈りのためにここから出たいんでしょ？
…わかってんだよ延寿ぁ
アタシらに「殺す気」でかかってきてほしいのさ
そうか…
そうだの…
何者の都合も関係無く吾は身勝手に
吾の旅路のためだけに延寿殿を殺そう


すまぬ…慧来
貴様との約定はどうやら時効が過ぎたようだ
自分の体も…
想えば久々に
手加減できぬやもしれぬ
あー
安心して
ピュン
ピュン


カマド君が喰ったムサシとミカサの能力も
僕の支配下にあるからさ！
ギュルルル


元より遠慮せぬ！諦めぬ！
ここにある存在凡てを戮してでも足掻いてみようぞ！


只(ただ)われらの
祈りのために


ズギギッ!
憑依されるって気ー持ちわるーい
それも取り憑いてるのが延寿様の心を盗んだ泥棒猫かと思うと吐きそうなのです
こんな精神体だけの化け物を愛せるなんて…
延寿様ってお優しい
過去にいる「羅睺の衆」たちに私達に対抗する手駒として作り替えられた…
もと「実済留の光」の教祖だったモノ
ザッ…
まあお婆さまの仇っちゃあ仇なのですけど延寿様の本妻とあっては…
うお
すごい…
ぼは～
「星降リシ水土ナルハ」──
「天土ノ繭守リシ見エズノ池」──


ここが――
「天土(アメツチ)ノ繭(マヨ)」
第66話／完



デスレス
第十巻
・製作
六道紳士
・作画補助
木林田　ウナム
たけぽんG
春夏秋冬　鈴
・担当編集
筆谷芳行
（順不同・敬称略）

少年画報社
http://shonengahosha.jp

電子書籍版

デスレス

10

六道神士